(様式第10)

島大医総第310-1号
平成26年10月3日

厚生労働大臣　殿

開設者名　国立大学法人島根大学
学長　小林　祥泰

島根大学医学部附属病院の業務に関する報告について

標記について、医療法（昭和23年法律第205号）第12条の3第1項の規定に基づき、平成25年度の業務に関して報告します。

記

1　開設者の住所及び氏名

住　　所	〒690-8504　島根県松江市西川津町1060
氏　　名	国立大学法人島根大学

(注)　開設者が法人である場合は、「住所」欄には法人の主たる事務所の所在地を、「氏名」欄には法人の名称を記入すること。

2　名　　称

島根大学医学部附属病院

3　所在の場所

〒693-8501　島根県出雲市塩冶町89-1
電話（0853）23－2111

4　診療科名

4-1 標榜する診療科名の区分

(1)医療法施行規則第六条の四第一項の規定に基づき、十六診療科名すべてを標榜
2 医療法施行規則第六条の四第四項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院として、十以上の診療科名を標榜

(注)　上記のいずれかを選択し、番号に○印を付けること。

4-2 標榜している診療科名

(1) 内科

内科	(有)・無
内科と組み合わせた診療科名等 1内分泌代謝内科　2腫瘍・血液内科　3消化器内科　4肝臓内科　5神経内科 6膠原病内科　7呼吸器・化学療法内科　8腎臓内科　9循環器内科	
診療実績	

(注) 1　「内科」欄及び「内科と組み合わせた診療科名等」欄については、標榜している診療科名について記入すること。

(注) 2　「リウマチ科」及び「アレルギー科」についても、「内科と組み合わせた診療科等」欄に記入すること。

(注) 3　「診療実績」欄については、医療法施行規則第六条の四第三項の規定により、他の診療科で医療を提供している場合に記入すること。

中国四国厚生局
厚生労働省
'26.10.-7
中厚収　第　号
受付

(2) 外科

外科	(有) ・ 無
外科と組み合わせた診療科名 1消化器外科　2肝・胆・膵外科　3小児外科　4乳腺・内分泌外科　5心臓血管外科 6呼吸器外科	
診療実績	

(注) 1　「外科」欄及び「外科と組み合わせた診療科名」欄については、標榜している診療科名について記入すること。

(注) 2　「診療実績」欄については、医療法施行規則第六条の四第三項の規定により、他の診療科で医療を提供している場合に記入すること。

(3) その他の標榜していることが求められる診療科名

1精神科　(2)小児科　(3)整形外科　(4)脳神経外科　(5)皮膚科　(6)泌尿器科　7産婦人科
(8)産科　(9)婦人科　(10)眼科　(11)耳鼻咽喉科　(12)放射線科　13放射線診断科
(14)放射線治療科　(15)麻酔科　16救急科

(注)　標榜している診療科名の番号に○印を付けること。

(4) 歯科

歯科	(有) ・ 無
歯科と組み合わせた診療科名 1歯科口腔外科	
歯科の診療体制	

(注) 1　「歯科」欄及び「歯科と組み合わせた診療科名」欄については、標榜している診療科名について記入すること。

(注) 2　「歯科の診療体制」欄については、医療法施行規則第六条の四第五項の規定により、標榜している診療科名として「歯科」を含まない病院については記入すること。

(5) (1)～(4)以外でその他に標榜している診療科名

1精神科神経科　2臨床検査科　3病理診断科

(注)　標榜している診療科名について記入すること。

5　病床数

精　神	感染症	結　核	療　養	一　般	合　計
30床	床	床	床	570床	600床

6　医師、歯科医師、薬剤師、看護師及び准看護師、管理栄養士その他の従業者の員数

（平成 26 年 10 月 1 日現在）

職種	常勤	非常勤	合計	職種	員数	職種		員数
医師	334人	6人	337.6人	看護補助者	50人	診療エックス線技師		0人
歯科医師	10人	0人	10人	理学療法士	10人	臨床検査	臨床検査技師	33人
薬剤師	33人	0人	33人	作業療法士	5人		衛生検査技師	0人
保健師	0人	0人	0人	視能訓練士	6人		その他	0人
助産師	19人	1人	19.8人	義肢装具士	0人	あん摩マッサージ指圧師		0人
看護師	566人	33人	588.3人	臨床工学技師	10人	医療社会事業従事者		7人
准看護師	0人	0人	0人	栄養士	2人	その他の技術員		39人
歯科衛生士	1人	2人	2.6人	歯科技工士	0人	事務職員		169人
管理栄養士	6人	0人	6人	診療放射線技師	29人	その他の職員		30人

(注) 1　申請前半年以内のある月の初めの日における員数を記入すること。
2　栄養士の員数には、管理栄養士の員数は含めないで記入すること。
3 「合計」欄には、非常勤の者を当該病院の常勤の従事者の通常の勤務時間により常勤換算した員数と常勤の者の員数の合計を小数点以下 2 位を切り捨て、小数点以下 1 位まで算出して記入すること。それ以外の欄には、それぞれの員数の単純合計員数を記入すること。

7　専門の医師数

（平成 26 年 10 月 1 日現在）

専門医名	人数	専門医名	人数
総合内科専門医	3 人	眼科専門医	8 人
外科専門医	28 人	耳鼻咽喉科専門医	7 人
精神科専門医	10 人	放射線科専門医	10 人
小児科専門医	19 人	脳神経外科専門医	3 人
皮膚科専門医	5 人	整形外科専門医	13 人
泌尿器科専門医	9 人	麻酔科専門医	18 人
産婦人科専門医	10 人	救急科専門医	2 人
		合計	145 人

(注)　人数には、非常勤の者を当該病院の常勤の従事者の通常の勤務時間により常勤換算した員数と常勤の者の員数の合計を小数点以下 1 位を切り捨て、整数で算出して記入すること。

8　前年度の平均の入院患者、外来患者及び調剤の数

歯科、矯正歯科、小児歯科及び歯科口腔外科の前年度の平均の入院患者及び外来患者の数

	歯科等以外	歯科等	合計
1 日当たり平均入院患者数	461.8人	8.4人	470.2人
1 日当たり平均外来患者数	936.3人	46.5人	982.8人
1 日当たり平均調剤数			721.5剤
必要医師数			104.542人
必要歯科医師数			4.328人
必要薬剤師数			26人
必要（准）看護師数			269人

(注) 1　「歯科等」欄には、歯科、矯正歯科、小児歯科及び歯科口腔外科を受診した患者数を、「歯科等以外」欄にはそれ以外の診療料を受診した患者数を記入すること。
2　入院患者数は、年間の各科別の入院患者延数（毎日の 24 時現在の在院患者数の合計）を暦日で除した数を記入すること。
3　外来患者数は、年間の各科別の外来患者延数をそれぞれ病院の年間の実外来診療日数で除し

た数を記入すること。
4　調剤数は、年間の入院及び外来別の調剤延数をそれぞれ暦日及び実外来診療日数で除した数を記入すること。
5　必要医師数、必要歯科医師数、必要薬剤師数及び必要（准）看護師数については、医療法施行規則第二十二条の二の算定式に基づき算出すること。

9　施設の構造設備

施設名	床面積	主要構造	設備		概要	
集中治療室	577.71㎡	鉄筋コンクリート	病床数	14床	心電計	(有)・無
			人工呼吸装置	(有)・無	心細動除去装置	(有)・無
			その他の救急蘇生装置	(有)・無	ペースメーカー	(有)・無
無菌病室等	[固定式の場合] 床面積 222.55㎡ [移動式の場合] 台数 0台				病床数 20床	
医薬品情報管理室	[専用室の場合] 床積 52㎡ [共用室の場合] 共用する室名					
化学検査室	523㎡	鉄筋ｺﾝｸﾘｰﾄ	（主な設備）生化学検査装置、免疫分析装置			
細菌検査室	100㎡	鉄筋ｺﾝｸﾘｰﾄ	（主な設備）血液培養装置、質量分析装置			
病理検査室	239㎡	鉄筋ｺﾝｸﾘｰﾄ	（主な設備）自動包埋装置、自動染色装置			
病理解剖室	57㎡	鉄筋ｺﾝｸﾘｰﾄ	（主な設備）感染対策用解剖台、臓器撮影装置			
研究室	14,142㎡	鉄筋ｺﾝｸﾘｰﾄ	（主な設備）実験台、透過電子顕微鏡、質量分析装置			
講義室	1,923㎡	鉄筋ｺﾝｸﾘｰﾄ	室数	11室	収容定員	1,506人
図書室	1,819㎡	鉄筋ｺﾝｸﾘｰﾄ	室数	1室	蔵書数	132,000冊程度

(注) 1　主要構造には、鉄筋コンクリート、簡易耐火、木造等の別を記入すること。
2　主な設備は、主たる医療機器、研究用機器、教育用機器を記入すること。

10　紹介率及び逆紹介率の前年度の平均値

算定期間		平成26年4月1日～平成26年8月31日	
紹介率	84.6%	逆紹介率	58.0%
算出根拠 A：紹介患者の数			4,049人
算出根拠 B：他の病院又は診療所に紹介した患者の数			3,145人
算出根拠 C：救急用自動車によって搬入された患者の数			536人
算出根拠 D：初診の患者の数			5,417人

(注) 1　「紹介率」欄は、A、Cの和をDで除した数に100を乗じて小数点以下第1位まで記入すること。
2　「逆紹介率」欄は、BをDで除した数に100を乗じて小数点以下第1位まで記入すること。
3　A、B、C、Dは、それぞれの前年度の延数を記入すること。

（様式第2）

高度の医療の提供の実績

1 承認を受けている先進医療の種類（注1）及び取扱患者数

先進医療の種類	取扱患者数
培養細胞による脂肪酸代謝異常症又は有機酸代謝異常症の診断	0 人
光トポグラフィー検査を用いたうつ症状の鑑別診断補助	10 人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人

（注）1 「先進医療の種類」欄には、厚生労働大臣の定める先進医療及び施設基準（平成二十年厚生労働省告示第百二十九号）第二各号に掲げる先進医療について記入すること。

（注）2 「取扱患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

（様式第2）

高度の医療の提供の実績

2 承認を受けている先進医療の種類（注1）及び取扱患者数

先進医療の種類	取扱患者数
蛍光膀胱鏡を用いた5―アミノレブリン酸溶解液の経口投与又は経尿道投与による膀胱がんの光力学的診断　筋層非浸潤性膀胱がん	35 人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人

（注）1 「先進医療の種類」欄には、厚生労働大臣の定める先進医療及び施設基準（平成二十年厚生労働省告示第百二十九号）第三各号に掲げる先進医療について記入すること。

（注）2 「取扱患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

（様式第2）

高度の医療の提供の実績

3 その他の高度の医療

医療技術名	造血幹細胞移植	取扱患者数	10人
当該医療技術の概要			
白血病，悪性リンパ腫，多発性骨髄腫の難治性の患者に対する治療。			
医療技術名	多チャンネルインピーダンス・pHモニタリング検査	取扱患者数	5人
当該医療技術の概要			
一般的な治療に抵抗する胸焼けや胸痛を有する患者の原因を調べる目的で行われる検査である。食道内へのあらゆる物質の逆流を24時間にわたって検索できる。			
医療技術名	経頭蓋磁気刺激治療（rTMS）	取扱患者数	12人
当該医療技術の概要			
パーキンソン病、パーキンソン関連疾患（皮質基底核変性症、進行性核上性麻痺）、多系統萎縮症に高頻度の反復磁気刺激治療を入院にて施行。			
医療技術名	経頭蓋直流刺激治療（tDCS）	取扱患者数	2人
当該医療技術の概要			
薬剤難治性の進行性の多系統委縮症に経頭蓋直流刺激を入院にて施行。			
医療技術名	LAMP法によるリケッチア感染症の迅速判断	取扱患者数	5人
当該医療技術の概要			
リケッチア感染症患者の皮膚及び血液よりLAMP法によりリケッチア遺伝子を検出し診断の補助をする。			
医療技術名	LAMP法による薬剤過敏関連遺伝子の検出	取扱患者数	5人
当該医療技術の概要			
LAMP法により，テグレトールおよびアロプリノール薬剤過敏関連遺伝子を検出し，薬剤過敏症の予防を行う。			
医療技術名	PCR法によるヘルペスウイルス遺伝子診断	取扱患者数	10人
当該医療技術の概要			
PCR法により皮膚組織から単純ヘルペスウイルス、帯状疱疹ウイルス遺伝子を検出し、診断の補助をする。			
医療技術名	膀胱癌に対するda Vinci Sを用いたロボット支援下根治的膀胱全摘除術	取扱患者数	5人
当該医療技術の概要			
da Vinci Sを用いたロボット支援下根治的膀胱全摘除術を導入することで、手術の安全性を確立し、術中出血の軽減や根治性の向上あるいは機能温存など、従来の根治的膀胱全摘除術における多くの課題を解決することが期待できる。			
医療技術名	腎癌に対するda Vinci Sを用いたロボット支援腹腔鏡下腎部分切除術	取扱患者数	5人
当該医療技術の概要			
da Vinci Sを用いたロボット支援腹腔鏡下腎部分切除術を導入することで、阻血時間の短縮による腎機能温存と切除断端陽性率の低下など、手術の安全性と根治性の改善が期待できる。			
医療技術名	緑内障チューブシャント手術	取扱患者数	85人
当該医療技術の概要			
難治性緑内障に対し、緑内障ドレナージデバイスを移植し、眼圧下降を図る。			
医療技術名	ロボットスーツHALを使用した歩行訓練	取扱患者数	5人
当該医療技術の概要			
神経筋疾患、小脳失調等の患者の歩行訓練にロボットスーツHALを用いる。			

医療技術名	心臓リハビリテーション	取扱患者数	202人
当該医療技術の概要 循環器疾患の患者について、治療・手術早期から関係職種が連携して早期リハビリテーションを実施している。			

（注）1　当該医療機関において高度の医療と判断するものが他にあれば、前年度の実績を記入すること。

（注）2　医療法施行規則第六条の四第四項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院として十以上の診療科名を標榜する病院については、他の医療機関での実施状況を含め、当該医療技術が極めて先駆的であることについて記入すること（当該医療が先進医療の場合についても記入すること）。

（様式第2）

高度の医療の提供の実績

4 特定疾患治療研究事業対象疾患についての診療

疾患名	取扱患者数	疾患名	取扱患者数
・ベーチェット病	36人	・膿疱性乾癬	6人
・多発性硬化症	32人	・広範脊柱管狭窄症	3人
・重症筋無力症	31人	・原発性胆汁性肝硬変	7人
・全身性エリテマトーデス	88人	・重症急性膵炎	5人
・スモン	5人	・特発性大腿骨頭壊死症	33人
・再生不良性貧血	22人	・混合性結合組織病	25人
・サルコイドーシス	42人	・原発性免疫不全症候群	0人
・筋萎縮性側索硬化症	12人	・特発性間質性肺炎	14人
・強皮症，皮膚筋炎及び多発性筋炎	92人	・網膜色素変性症	15人
・特発性血小板減少性紫斑病	31人	・プリオン病	0人
・結節性動脈周囲炎	30人	・肺動脈性肺高血圧症	1人
・潰瘍性大腸炎	85人	・神経線維腫症	4人
・大動脈炎症候群	11人	・亜急性硬化性全脳炎	0人
・ビュルガー病	7人	・バッド・キアリ（Budd-Chiari）症候群	0人
・天疱瘡	13人	・慢性血栓塞栓性肺高血圧症	3人
・脊髄小脳変性症	16人	・ライソゾーム病	0人
・クローン病	57人	・副腎白質ジストロフィー	1人
・難治性の肝炎のうち劇症肝炎	0人	・家族性高コレステロール血症（ホモ接合体）	0人
・悪性関節リウマチ	4人	・脊髄性筋萎縮症	0人
・パーキンソン病関連疾患（進行性核上性麻痺、大脳皮質基底核変性症及びパーキンソン病）	78人	・球脊髄性筋萎縮症	0人
		・慢性炎症性脱髄性多発神経炎	10人
・アミロイドーシス	9人	・肥大型心筋症	5人
・後縦靭帯骨化症	27人	・拘束型心筋症	0人
・ハンチントン病	1人	・ミトコンドリア病	4人
・モヤモヤ病（ウィリス動脈輪閉塞症）	11人	・リンパ脈管筋腫症（LAM）	0人
・ウェゲナー肉芽腫症	5人	・重症多形滲出性紅斑（急性期）	0人
・特発性拡張型（うっ血型）心筋症	13人	・黄色靭帯骨化症	4人
・多系統萎縮症（線条体黒質変性症、オリーブ橋小脳萎縮症及びシャイ・ドレーガー症候群）	13人	・間脳下垂体機能障害（PRL分泌異常症、ゴナドトロピン分泌異常症、ADH分泌異常症、下垂体性TSH分泌異常症、クッシング病、先端巨大症、下垂体機能低下症）	63人
・表皮水疱症（接合部型及び栄養障害型）	0人		

（注）「取扱患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

（様式第2）

高度の医療の提供の実績

5 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等（基本診療料）

施設基準の種類	施設基準の種類
・歯科外来診療環境体制加算	・データ提出加算2
・特定機能病院入院基本料	・救命救急入院料3
・臨床研修病院入院診療加算	・特定集中治療室管理料2
・救急医療管理加算	・新生児特定集中治療室管理料1
・超急性期脳卒中加算	・小児入院医療管理料2
・妊産婦緊急搬送入院加算	・緩和ケア病棟入院料
・診療録管理体制加算2	
・急性期看護補助体制加算	
・看護補助加算	
・看護職員夜間配置加算	
・療養環境加算	
・重症者等療養環境特別加算	
・無菌治療室管理加算1	
・無菌治療室管理加算2	
・緩和ケア診療加算	
・精神科身体合併症管理加算	
・がん診療連携拠点病院加算	
・栄養サポートチーム加算	
・医療安全対策加算1	
・感染防止対策加算1	
・患者サポート体制充実加算	
・褥瘡ハイリスク患者ケア加算	
・ハイリスク妊娠管理加算	
・ハイリスク分娩管理加算	
・退院調整加算	
・救急搬送患者地域連携紹介加算	

（様式第2）

高度の医療の提供の実績

6 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等（特掲診療料）

No.1

施設基準の種類	施設基準の種類
・植込型除細動器移行期加算	・時間内歩行試験
・高度難聴指導管理料	・胎児心エコー法
・糖尿病合併症管理料	・ヘッドアップティルト試験
・がん性疼痛緩和指導管理料	・皮下連続式グルコース測定
・がん患者指導管理料3	・長期継続頭蓋内脳波検査
・外来緩和ケア管理料	・神経学的検査
・移植後患者指導管理料（臓器移植後）	・補聴器適合検査
・糖尿病透析予防指導管理料	・コンタクトレンズ検査料1
・院内トリアージ実施料	・小児食物アレルギー負荷検査
・外来放射線照射診療料	・内服・点滴誘発試験
・ニコチン依存症管理料	・センチネルリンパ節生検（併用）、（単独）
・開放型病院共同指導料	・CT透視下気管支鏡検査加算
・地域連携診療計画管理料	・画像診断管理加算1
がん治療連携計画策定料	・画像診断管理加算2
・がん治療連携管理料	・遠隔画像診断
・認知症専門診断管理料	・CT撮影及びMRI撮影
・肝炎インターフェロン治療計画料	・冠動脈CT撮影加算
・薬剤管理指導料	・外傷全身CT加算
・医療機器安全管理料1	・大腸CT撮影加算
・医療機器安全管理料2	・心臓MRI撮影加算
・歯科治療総合医療管理料	・抗悪性腫瘍剤処方管理加算
・持続血糖測定器加算	・外来化学療法加算1
・HPV核酸検出及びHPV核酸検出（簡易ジェノタイプ判定）	・無菌製剤処理料
・検体検査管理加算（Ⅳ）	・心大血管疾患リハビリテーション料（Ⅰ）
・心臓カテーテル法による諸検査の血管内視鏡検査加算	・脳血管疾患等リハビリテーション料（Ⅰ）
・植込型心電図検査	・運動器リハビリテーション料（Ⅰ）

（様式第2）

高度の医療の提供の実績

6 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等（特掲診療料）

No.2

施設基準の種類	施設基準の種類
・呼吸器リハビリテーション料（Ⅰ）	・両心室ペースメーカー移植術及び両心室ペースメーカー交換術
・がん患者リハビリテーション料	・植込型除細動器移植術及び植込型除細動器交換術及び経静脈電極抜去術（レーザーシースを用いるもの）
・歯科口腔リハビリテーション料2	・両室ペーシング機能付き植込型除細動器移植術及び両室ペーシング機能付き植込型除細動器交換術
・認知療法・認知行動療法1	・大動脈バルーンパンピング法（IABP法）
・抗精神病特定薬剤治療指導管理料（治療抵抗性統合失調症治療指導管理料に限る。）	・補助人工心臓
・医療保護入院等診療料	・経皮的大動脈遮断術
・エタノールの局所注入（甲状腺）	・ダメージコントロール手術
・エタノールの局所注入（副甲状腺）	・体外衝撃波胆石破砕術
・透析液水質確保加算1	・腹腔鏡下肝切除術
・一酸化窒素吸入療法	・体外衝撃波膵石破砕術
・悪性黒色腫センチネルリンパ節加算	・腹腔鏡下膵体尾部腫瘍切除術
・組織拡張器による再建手術（乳房（再建手術）の場合に限る。）	・早期悪性腫瘍大腸粘膜下層剥離術
・骨移植術（軟骨移植術を含む。）（自家培養軟骨移植術に限る。）	・体外衝撃波腎・尿管結石破砕術
・脳刺激装置植込術（頭蓋内電極植込術を含む。）及び脳刺激装置交換術	・腎腫瘍凝固・焼灼術（冷凍凝固によるもの）
・脊髄刺激装置植込術及び脊髄刺激装置交換術	・同種死体腎移植術
・緑内障手術（緑内障治療用インプラント挿入術（プレートのあるもの））	・生体腎移植術
・網膜再建術	・膀胱水圧拡張術
・人工内耳植込術、植込型骨導補聴器移植術及び植込型骨導補聴器交換術	・腹腔鏡下膀胱悪性腫瘍手術
・内視鏡下鼻・副鼻腔手術V型（拡大副鼻腔手術）	・人工尿道括約筋植込・置換術
・上顎骨形成術（骨移動を伴う場合に限る。）（歯科）、下顎骨形成術（骨移動を伴う場合に限る。）（歯科）	・医科点数表第2章第10部手術の通則5及び6（歯科点数表第2章第9部の通則4を含む。）に掲げる手術
・乳がんセンチネルリンパ節加算1、2	・医科点数表第2章第10部手術の通則の16に掲げる手術
・ゲル充填人工乳房を用いた乳房再建術（乳房切除後）	・輸血管理料Ⅰ
・経皮的冠動脈形成術	・輸血適正使用加算
・経皮的冠動脈ステント留置術	・貯血式自己血輸血管理体制加算
・ペースメーカー移植術及びペースメーカー交換術	・人工肛門・人工膀胱造設術前処置加算
・植込型心電図記録計移植術及び植込型心電図記録計摘出術	・内視鏡手術用支援機器加算

（様式第2）

高度の医療の提供の実績

6 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等（特掲診療料）

施設基準の種類	施設基準の種類
・胃瘻造設時嚥下機能評価加算	
・広範囲顎骨支持型装置埋入手術	
・麻酔管理料（Ⅰ）	
・麻酔管理料（Ⅱ）	
・放射線治療専任加算	
・外来放射線治療加算	
・高エネルギー放射線治療	
・1回線量増加加算	
・強度変調放射線治療（IMRT）	
・直線加速器による定位放射線治療	
・病理診断管理加算2	
・口腔病理診断管理加算2	
・クラウン・ブリッジ維持管理料	
・歯科矯正診断料	

（様式第2）

高度の医療の提供の実績

7 健康保険法の規定による療養に要する費用の額の算定方法に先進医療から採り入れられた医療技術

施設基準等の種類	施設基準等の種類
・インプラント義歯	・
・人工括約筋を用いた尿失禁手術	・
・マイクロ波子宮内膜アブレーション	・
・光トポグラフィー検査を用いたうつ症状の鑑別診断補助	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・

(注) 1 特定機能病院の名称の承認申請の場合には、必ずしも記入しなくともよいこと。
(注) 2 「施設基準等の種類」欄には、特定機能病院の名称の承認申請又は業務報告を行う3年前の4月以降に、健康保険法の規定による療養に要する費用の額の算定方法（平成六年厚生省告示第五十四号）に先進医療（当該病院において提供していたものに限る。）から採り入れられた医療技術について記入すること。

8 病理・臨床検査部門の概要

臨床検査及び病理診断を実施する部門の状況	① 臨床検査部門と病理診断部門は別々である。 2. 臨床検査部門と病理診断部門は同一部門にまとめられている。
臨床部門が病理診断部門或いは臨床検査部門と開催した症例検討会の開催頻度	70回／年
部検の状況	部検症例数　33例　／　剖検率　9.60%

（様式第3）

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

1 研究費補助等の実績

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元	
ホルモン受容機構異常に関する調査研究	杉本 利嗣	内分泌代謝内科	1,270,000	補	厚生労働省科学研究費補助金
消化管ホルモンGIPとGIP不活化物質DPP-4は生活習慣病にともなう骨粗鬆症の関連因子となり得るか？	野津 雅和	内分泌代謝内科	800,000	補	一般社団法人日本骨粗鬆症学会
消化管による骨代謝制御機構の検討－インクレチンシグナルの骨形成増強作用の解明－	杉本 利嗣	内分泌代謝内科	2,470,000	補	文部科学省科学研究費補助金
2型糖尿病における骨質劣化および骨折リスクに関する研究	山口 徹	内分泌代謝内科	1,950,000	補	文部科学省科学研究費補助金
骨・血管連関の解明を目指したLDLコレステロールが骨に及ぼす影響の検討	山内 美香	内分泌代謝内科	1,430,000	補	文部科学省科学研究費補助金
酸化ストレス・Wnt/β-catenin経路による2型糖尿病の骨代謝異常の解明	山本 昌弘	内分泌代謝内科	3,380,000	補	文部科学省科学研究費補助金
骨・脂肪・筋肉の相互関連性におけるオステオカルシンの役割を解明する	金沢 一平	内分泌代謝内科	2,470,000	補	文部科学省科学研究費補助金
白血病髄外浸潤におけるROCKの機能解析と新規標的戦略	大西 千恵	腫瘍・血液内科	1,300,000	補	文部科学省科学研究費補助金
消化管を主座とする好酸球性炎症症候群の診断治療法開発、疫学、病態解明に関する研究	木下 芳一	消化器内科	8,000,000	補	厚生労働省科学研究費補助金
好酸球性食道炎の病態に及ぼす胃酸の影響についての研究	木下 芳一	消化器内科	2,990,000	補	文部科学省科学研究費補助金
制御性B細胞による腸管免疫抑制機構とその破綻による腸炎発症機序の解明	石原 俊治	消化器内科	1,040,000	補	文部科学省科学研究費補助金
バレット食道形成過程におけるNotchシグナルの機能解析：Cdx2との相互作用	石村 典久	消化器内科	1,430,000	補	文部科学省科学研究費補助金
Barrett食道及び腺癌発生におけるNotchシグナルとKLF4の関連について	玉川 祐司	消化器内科	1,430,000	補	文部科学省科学研究費補助金
慢性ウイルス性肝疾患の非侵襲的線維化評価法の開発と臨床的有用性の確立	佐藤 秀一	肝臓内科	500,000	補	厚生労働省科学研究費補助金
動機づけシステムの脳内神経基盤の解明とアパシーの新規治療	山口 修平	神経内科	1,820,000	補	文部科学省科学研究費補助金
肺癌領域の抗悪性腫瘍薬の新規PK/PD解析方法の開発	礒部 威	呼吸器・化学療法内科	250,000	委	独立行政法人国立がん研究センター
生命予後に関わる重篤な食物アレルギーの実態調査・新規治療法の開発および治療指針の策定	森田 栄伸	皮膚科	16,500,000	補	厚生労働省科学研究費補助金
成人独自のアナフィラキシーの実態と病態に関する研究	千貫 祐子	皮膚科	250,000	補	厚生労働省科学研究費補助金
重症多形進出性紅斑に関する調査研究	森田 栄伸	皮膚科	2,500,000	補	厚生労働省科学研究費補助金
アレルギー疾患のダイナミックな変化とその背景因子の横断的解析による医療経済の改善効果に関する調査研究	金子 栄	皮膚科	800,000	補	厚生労働省科学研究費補助金
牛肉アレルギー患者で持続的に高発現される好塩基球CD203cの活性化機序の解明	千貫 祐子	皮膚科	1,560,000	補	文部科学省科学研究費補助金
LAMP法によるリケッチア感染症の新規迅速診断法の確立	新原 寛之	皮膚科	1,820,000	補	文部科学省科学研究費補助金
アトピー性皮膚炎のバリア機能破綻に関わるタンパク質群の網羅的な同定・相対定量解析	高橋 仁	皮膚科	1,690,000	補	文部科学省科学研究費補助金
乳幼児突然死症候群(SIDS)および乳幼児突発性危急事態（ALTE）の病態解明および予防法開発に向けた複数領域専門家による統合的研究	山口 清次	小児科	450,000	補	厚生労働省科学研究費補助金
ミトコンドリア病に合併する高乳酸血症に対するピルビン酸ナトリウム治療法の開発研究―試薬からの希少疾病治療薬開発の試み―	山口 清次	小児科	1,500,000	補	厚生労働省科学研究費補助金
次世代シークエンサーを駆使した希少遺伝性難病の病因解明と治療法開発の研究	山口 清次	小児科	5,000,000	補	厚生労働省科学研究費補助金
新しい新生児代謝スクリーニング時代に適応した先天代謝異常症の診断基準作成と治療ガイドラインの作成および新たな薬剤開発に向けた調査研究	山口 清次	小児科	1,000,000	補	厚生労働省科学研究費補助金
重症のインフルエンザによる肺炎・脳症の診断・治療に関する研究：新規診断・治療に関する提案と検証	山口 清次	小児科	1,500,000	補	厚生労働省科学研究費補助金
今後の小児慢性特定疾患治療研究事業のあり方に関する研究	山口 清次	小児科	4,920,000	補	厚生労働省科学研究費補助金
新規医薬品・医療機器等の創出、難治性疾患の治療法の開発および最適な治療法の確立に関する研究	山口 清次	小児科	500,000	補	厚生労働省科学研究費補助金
新生児マススクリーニング（NBS）の標準化、適応疾患の拡大とゲノムコホート研究の推進	山口 清次	小児科	300,000	委	独立行政法人国立成育医療研究センター
培養細胞とタンデムマスとを用いた小児感染毒素等によるβ酸化障害評価法の開発	山口 清次	小児科	1,170,000	補	文部科学省科学研究費補助金
小児の急性脳症と有機酸・脂肪酸代謝障害の関連に関する研究	山口 清次	小児科	3,120,000	補	文部科学省科学研究費補助金
小児白血病の中枢神経浸潤に対する分子基盤解明と新規治療法開発	福田 誠司	小児科	1,950,000	補	文部科学省科学研究費補助金
薬剤性カルニチン欠乏症の臨床像と病態に関する研究	小林 弘典	小児科	1,950,000	補	文部科学省科学研究費補助金
ITD－Flt3陽性造血器腫瘍におけるp21WAF1の機能解析と新たな治療戦略	安部 真理子	小児科	1,430,000	補	文部科学省科学研究費補助金
脂肪酸代謝異常症に対する新しい治療薬の研究と比較	高橋 知男	小児科	2,080,000	補	文部科学省科学研究費補助金
膵癌における転写制御因子NAC1とその下流遺伝子群の治療標的としての基盤研究	西 健	消化器外科	2,340,000	補	文部科学省科学研究費補助金

（小計38）

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元	
胆汁耐性ヘリコバクター胆道感染の診断・治療システムの構築と胆道発癌予防法の確立	田島 義証	肝・胆・膵外科	2,990,000	補	文部科学省科学研究費補助金
全血液成分を対象とするプロテオミクスによる脳低体温療法に関する網羅的研究	織田 禎二	心臓血管外科	780,000	補	文部科学省科学研究費補助金
低体温導入及び復温に伴う心筋蛋白質リン酸化（脱リン酸）の網羅的プロテオミクス解析	織田 禎二	心臓血管外科	4,550,000	補	文部科学省科学研究費補助金
半月板損傷治癒をもたらす生体接着剤とプラズマ照射法の開発	内尾 祐司	整形外科	1,300,000	補	文部科学省科学研究費補助金
安全かつ効果的な同種骨移植骨を可能にするプラズマ処理	今出 真司	整形外科	1,690,000	補	文部科学省科学研究費補助金
変形関節症における変性軟骨のコラーゲンネットワーク再構築	桑田 卓	整形外科	780,000	補	文部科学省科学研究費補助金
脳腫瘍幹細胞とニッチにおけるインドールアミンジオキシゲナーゼの阻害効果	宮嵜 健史	脳神経外科	2,340,000	補	文部科学省科学研究費補助金
アカシジアの病態解明に関する周期性四肢運動の運動形態分類別の電気生理学的研究	堀口 淳	精神科神経科	1,560,000	補	文部科学省科学研究費補助金
難治性統合失調症における塩酸ミノサイクリンの有効性とその機序に関する研究	宮岡 剛	精神科神経科	1,040,000	補	文部科学省科学研究費補助金
活性化ヒトグリア細胞による神経毒性の研究	橋岡 禎征	精神科神経科	1,950,000	補	文部科学省科学研究費補助金
Circadian rhythm安定化に基づく心血管バイパス術後せん妄予防の開発	古屋 智英	精神科神経科	1,300,000	補	文部科学省科学研究費補助金
難治性TypeII子宮内膜癌の発癌機構解明とその臨床応用を目指した基礎的検討	宮崎 康二	産科婦人科	1,430,000	補	文部科学省科学研究費補助金
GnRHパルス頻度依存性特異的ゴナドトロピン発現機構の解明	金崎 春彦	産科婦人科	1,300,000	補	文部科学省科学研究費補助金
難治性卵巣がんの新規増幅遺伝子NAC1を標的とした治療法の開発	中山 健太郎	産科婦人科	1,560,000	補	文部科学省科学研究費補助金
卵巣明細胞腺癌の新規癌抑制遺伝子ARID1Aの変異と抗癌剤耐性機構との関連	石川 雅子	産科婦人科	1,170,000	補	文部科学省科学研究費補助金
なぜ舌下免疫療法は有効なのか？ーマウスモデルでの免疫学的解析ー	川内 秀之	耳鼻咽喉科	780,000	補	文部科学省科学研究費補助金
DNA塩基除去修復欠損マウスを用いた網膜光障害の分子病態解明	大平 明弘	眼科	1,040,000	補	文部科学省科学研究費補助金
眼圧下降薬に対する薬剤応答バイオマーカー遺伝子の網羅的探索	谷戸 正樹	眼科	2,080,000	補	文部科学省科学研究費補助金
実験的網脈絡膜新生血管に対する生体防御因子の抑制効果	高井 保幸	眼科	1,300,000	補	文部科学省科学研究費補助金
がん疼痛の鎮痛法によって予後は変わるか	齊藤 洋司	麻酔科	1,430,000	補	文部科学省科学研究費補助金
μオピオイドによる痒みの機序解明とガバペンチンの鎮痒効果	今町 憲貴	麻酔科	1,950,000	補	文部科学省科学研究費補助金
脊髄における5HTレセプターの疼痛修飾機能の役割を明らかにする	二階 哲朗	麻酔科	910,000	補	文部科学省科学研究費補助金
おとり遺伝子を用いた変形性関節症への新規遺伝子治療法の応用	石橋 浩晃	歯科口腔外科	1,170,000	補	文部科学省科学研究費補助金
おとり遺伝子による癌の血管新生抑制を標的とした純国産型遺伝子治療法の開発	石橋 浩晃	歯科口腔外科	4,810,000	補	文部科学省科学研究費補助金
顎骨骨膜細胞と骨伝導能を有する新規生体吸収性足場を用いた顎骨再生療法の開発	管野 貴浩	歯科口腔外科	1,950,000	補	文部科学省科学研究費補助金
ナノ粒子とアミロイド親和・抑制物質によるアルツハイマー病早期診断・治療法開発研究	長井 篤	臨床検査科	3,640,000	補	文部科学省科学研究費補助金
尿毒素物質による異化亢進機序の解明と治療への応用	矢野 彰三	臨床検査科	1,560,000	補	文部科学省科学研究費補助金
質量分析計を用いた血中アミノ酸とアミノ酸関連物質の測定による病態マーカーの探索	馬庭 恭平	検査部	438,000	補	日本臨床検査自動化学会
LAMP法を用いたサイトメガロウイルス・2.7mRNA検査法の確立	松田 親史	検査部	408,000	補	日本臨床検査自動化学会
バーチャル画像を用いた尿沈渣の鏡検技術教育方法の確立	松田 親史	検査部	200,000	補	NPO法人つくば臨床検査教育・研究センター
重症低ホスファターゼ症に対する骨髄移植併用同種間葉系幹細胞移植	竹谷 健	輸血部	27,950,000	補	厚生労働省科学研究費補助金
希少疾患への治療応用を目指した臍帯および臍帯血由来細胞の系統的資源化とその応用に関する研究	竹谷 健	輸血部	1,500,000	補	厚生労働省科学研究費補助金
NUP98－HOX融合遺伝子と協調する遺伝子変異との白血病発症メカニズムの解析	竹谷 健	輸血部	2,080,000	補	文部科学省科学研究費補助金
腸管上皮の再生および炎症性発癌の過程におけるLgr5陽性上皮幹細胞の機能解明	結城 崇史	光学医療診療部	1,300,000	補	文部科学省科学研究費補助金
乳癌におけるNAC-1タンパク発現と，臨床病理学的因子との相関	丸山 理留敬	病理部	1,820,000	補	文部科学省科学研究費補助金
電磁環境からの医療機器の安全安心な使用環境の確立と医療効率向上に関する研究	花田 英輔	医療情報部	4,940,000	補	文部科学省科学研究費補助金
医療安全文化醸成度の可視的指標の開発と検証に関する研究	廣瀬 昌博	病院医学教育センター	650,000	補	文部科学省科学研究費補助金

（小計37）

合計75

（注） 1 国、地方公共団体又は公益法人から補助金の交付又は委託を受け、当該医療機関に所属する医師等が申請の前年度に行った研究のうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること。

2 「研究者氏名」欄は、1つの研究について研究者が複数いる場合には、主たる研究者の氏名を記入すること。

3 「補助元又は委託元」欄は、補助の場合は「補」に、委託の場合は「委」に、○印をつけた上で、補助元又は委託元を記入すること。

（様式第3）

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

2 論文発表等の実績

(1)高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象となる論文

番号	発表者氏名	発表者の所属	題名	雑誌名
1	Sugimoto T	Internal Medicine 1, Faculty of Medicine, Shimane University	Profile of changes in bone turnover markers during once-weekly teriparatide administration for 24 weeks in postmenopausal women with osteoporosis.	Osteoporos Int. 2014 Mar;25(3):1173-80.
2	Yamamoto M	Internal Medicine 1, Shimane University Faculty of Medicine	Elevated sclerostin levels are associated with vertebral fractures in patients with type 2 diabetes mellitus.	J Clin Endocrinol Metab. 2013 Oct;98(10):4030-7.
3	Ogawa-Furuya N	Department of Internal Medicine 1, Shimane University Faculty of Medicine	Serum osteocalcin levels are inversely associated with abdominal aortic calcification in men with type 2 diabetes mellitus.	Osteoporos Int. 2013 Aug;24(8):2223-30.
4	Morita M	Department of Internal Medicine 1, Shimane University Faculty of Medicine	Urinary type IV collagen as a predictor for the incidence of microalbuminuria in young patients with Type 1 diabetes.	Diabet Med. 2014 Feb;31(2):213-8.
5	Tanaka K	Department of Internal Medicine 1, Shimane University Faculty of Medicine	Advanced glycation end products suppress osteoblastic differentiation of stromal cells by activating endoplasmic reticulum stress.	Biochem Biophys Res Commun. 2013 Aug 30;438(3):463-7.
6	Tanaka K	Department of Internal Medicine 1, Shimane University Faculty of Medicine	One-hour post-load hyperglycemia by 75g oral glucose tolerance test as a novel risk factor of atherosclerosis.	Endocr J. 2014;61(4):329-34. Epub 2014 Jan 16.
7	Kawabata Y	Department of Digestive and General Surgery, Faculty of Medicine, Shimane University	What is an adequate surgical management for pTis and pT1 early ampullary carcinoma?	Hepatogastroenterology. 2014 Jan-Feb;61(129):12-7.
8	Aziz M	Department of Internal Medicine II, Shimane University School of Medicine	Crosstalk between TLR5 and Notch1 signaling in epithelial cells during intestinal inflammation.	Int J Mol Med. 2013 Nov;32(5):1051-62.
9	Furuta K	Second Department of Internal Medicine, Shimane University Faculty of Medicine	Case-control study of association of eosinophilic gastrointestinal disorders with Helicobacter pylori infection in Japan.	J Clin Biochem Nutr. 2013 Jul;53(1):60-2.
10	Ishimura N	Department of Gastroenterology and Hepatology, Shimane University School of Medicine	Limited role of allergy testing in patients with eosinophilic gastrointestinal disorders.	J Gastroenterol Hepatol. 2013 Aug;28(8):1306-13.
11	Mishiro T	Department of Gastroenterology and Hepatology, Faculty of Medicine, Shimane University	Butyric acid attenuates intestinal inflammation in murine DSS-induced colitis model via milk fat globule-EGF factor 8.	Lab Invest. 2013 Jul;93(7):834-43.
12	Tada Y	Department of Internal Medicine II, Shimane University	Successful use of maintenance infliximab for nephropathy in a patient with secondary amyloidosis complicating Crohn's disease.	Intern Med. 2013;52(17):1899-902.

番号	発表者氏名	発表者の所属	題名	雑誌名
13	Fukazawa K	Second Department of Internal Medicine, Shimane University Faculty of Medicine	Continuous imaging of esophagogastric junction in patients with reflux esophagitis using 320-row area detector CT: a feasibility study.	J Gastroenterol Hepatol. 2013 Oct;28(10):1600-7.
14	Ishihara S	Department of Internal Medicine II, Faculty of Medicine, Shimane University	Pathogenesis of irritable bowel syndrome--review regarding associated infection and immune activation.	Digestion. 2013;87(3):204-11.
15	Ohara S	Department of Gastroenterology and Hepatology, Shimane University School of Medicine	Generation of Gastroesophageal Reflux Disease Symptoms During Esophageal Acid Infusion With Concomitant Esophageal pH Monitoring in Healthy Adults.	J Neurogastroenterol Motil. 2013 Oct;19(4):503-8.
16	Oka A	Second Department of Internal Medicine, Shimane University School of Medicine	An unusual case of a gastric foreign body.	Gastroenterology. 2013 Dec;145(6):1206, 1500-1.
17	Sato S	Division of Gastrointestinal Endoscopy, Shimane University Hospital	Bleeding in abdominal cavity revealed by contrast-enhanced ultrasonography	Journal of Medical Ultrasonics. 40: 289-291, 2013
18	Oka A	Department of Internal Medicine II, Shimane University School of Medicine	Role of regulatory B cells in chronic intestinal inflammation: association with pathogenesis of Crohn's disease.	Inflamm Bowel Dis. 2014 Feb;20(2):315-28.
19	Ishimura N	Department of Gastroenterology and Hepatology, Shimane University School of Medicine	Gastroesophageal acid reflux mainly occurs on the right side of the esophagus.	Gastrointest Endosc. 2014 Jan;79(1):180-1.
20	Onoda K	Department of Neurology, Shimane University	Validation of a new mass screening tool for cognitive impairment: Cognitive Assessment for Dementia, iPad version.	Clin Interv Aging. 2013;8:353-60.
21	Wang H	Department of Neurology, Shimane University Faculty of Medicine	Human mesenchymal stem cell transplantation changes proinflammatory gene expression through a nuclear factor-κB-dependent pathway in a rat focal cerebral ischemic model.	J Neurosci Res. 2013 Nov;91(11):1440-9.
22	Mitaki S	Department of Neurology, Shimane University School of Medicine	Apathy is associated with a single-nucleotide polymorphism in a dopamine-related gene.	NeuroSci Lett. 2013 Aug 9;549:87-91.
23	Onoda K	Department of Neurology, Shimane University	Small-worldness and modularity of the resting-state functional brain network decrease with aging.	NeuroSci Lett. 2013 Nov 27;556:104-8.
24	Karino F	Division of Medical Oncology and Respiratory Medicine, Department of Internal Medicine, Faculty of Medicine, Shimane University	Efficacy and safety of piperacillin/tazobactam versus biapenem in late elderly patients with nursing- and healthcare-associated pneumonia.	J Infect Chemother. 2013 Oct;19(5):909-15.
25	Chen LJ	Department of Internal Medicine, Division of Clinical Oncology & Respiratory Medicine, Shimane University Faculty of Medicine	Cyclooxygenase 2 1195G > A polymorphism is associated with chronic obstructive pulmonary disease in Japanese and Chinese patients.	Chin Med J(Engl). 2013 Jun;126(12):2215-21.

番号	発表者氏名	発表者の所属	題名	雑誌名
26	Endo A	Division of Cardiology, Shimane University Faculty of Medicine.	Capecitabine induces both cardiomyopathy and multifocal cerebral leukoencephalopathy.	Int Heart J. 2013;54(6):417-20.
27	Amano C	Department of Nephrology, Shimane University Hospital, Shimane University Faculty of Medicine	Effects of different administration protocols on the plasma concentration of donepezil hydrochloride in dementia patients with stage 5 chronic kidney disease.	Nephron Extra. 2013 Jun 8;3(1):59-65.
28	Ito S	Division of Cardiology, Shimane University Faculty of Medicine	Trousseau syndrome with nonbacterial thrombotic endocarditis in a patient with uterine cancer.	Intern Med. 2013;52(12):1353-8.
29	Takahashi N	Fourth Department of Internal Medicine, Shimane University Faculty of Medicine	Impairment of platelet retention rate in patients with severe aortic valve stenosis.	J Cardiol. 2013 Sep;62(3):171-5.
30	Kaneko S	Department of Dermatology, Shimane University Faculty of Medicine	Mycobacterium marinum infection in a case of psoriasis treated with antitumor necrosis factor α antibody detected by QuantiFERON(®) -TB test.	Int J Dermatol. 2014 Mar;53(3):e187-9.
31	Niihara H	Department of Dermatology, Shimane University Faculty of Medicine	HLA-B*58:01 strongly associates with allopurinol-induced adverse drug reactions in a Japanese sample population.	J Dermatol Sci. 2013 Aug;71(2):150-2.
32	Morita E	Department of Dermatology, Shimane University Faculty of Medicine	Recent advances of in vitro tests for the diagnosis of food-dependent exercise-induced anaphylaxis.	J Dermatol Sci. 2013 Sep;71(3):155-9.
33	Takahashi H	Department of Dermatology, Shimane University Faculty of Medicine	Laminin γ-1 and collagen α-1 (VI) chain are galactose-α-1,3-galactose-bound allergens in beef.	Allergy. 2014 Feb;69(2):199-207.
34	Mine J	Department of Pediatrics, Shimane University School of Medicine	A 14-year-old girl with hyperekplexia having GLRB mutations.	Brain Dev. 2013 Aug;35(7):660-3.
35	Saito A	Departments of *Pediatrics §Radiology // Organ Pathology, Shimane University Faculty of Medicine	A case with sacrococcygeal primitive myxoid mesenchymal tumor of infancy: a case report and review of the literature.	J Pediatr Hematol Oncol. 2013 Oct;35(7):e280-2.
36	Yamaguchi S	Department of Pediatrics, Shimane University Faculty of Medicine	Expanded newborn mass screening with MS/MS and medium-chain acyl-CoA dehydrogenase (MCAD) deficiency in Japan	日本マス・スクリーニング学会誌 23(3): 270-276 (2013年12月)
37	Monma H	Department of Immunology, Shimane University Faculty of Medicine	The HSP70 and autophagy inhibitor pifithrin-μ enhances the antitumor effects of TRAIL on human pancreatic cancer.	Mol Cancer Ther. 2013 Apr;12(4):341-51.

番号	発表者氏名	発表者の所属	題名	雑誌名
38	Hirahara N	Department of Digestive and General Surgery, Shimane University Faculty of Medicine	Protein-bound polysaccharide-K induces apoptosis via mitochondria and p38 mitogen-activated protein kinase-dependent pathways in HL-60 promyelomonocytic leukemia cells.	Oncol Rep. 2013 Jul;30(1):99-104.
39	Kawabata Y	Department of Digestive and General Surgery, Shimane University Faculty of Medicine	Distal pancreatectomy utilizing a flexible stapler closure eliminates the risk of pancreas-related factors for postoperative pancreatic fistula.	Eur Surg Res. 2013;50(2):71-9.
40	Hirahara N	Shimene University School of Medicine	Safe and simple gastric conduit pull-through procedure through the posterior mediastinal route using echo probe cover in thoracoscopic subtotal esophagectomy.	Surg Laparosc Endosc Percutan Tech. 2013 Aug;23(4):e141-4.
41	Miki Hyakudomi	Department of Digestive and General Surgery, Shimane University Faculty of Medicine	A case of male inflammatory breast cancer.	Int Canc Conf J, 2:183-187, 2013
42	Imade S	Department of Orthopaedic Surgery, Shimane University School of Medicine	Modification of side-locking loop suture technique using an antislip knot for repair of Achilles tendon rupture.	J Foot Ankle Surg. 2013 Jul-Aug;52(4):553-5.
43	Imade S	Department of Orthopaedic Surgery, Shimane University School of Medicine	A comparison of patient-reported outcomes and arthroscopic findings between drilling and autologous osteochondral grafting for the treatment of articular cartilage defects combined with anterior cruciate ligament injury.	Knee. 2013 Oct;20(5):354-9.
44	Imade S	Department of Orthopaedic Surgery, Shimane University Faculty of Medicine	Clinical outcomes of revision meniscal repair: a case series.	Am J Sports Med. 2014 Feb;42(2):350-7.
45	Akiyama Y	Department of Neurosurgery, Shimane University Faculty of Medicine	Occipital transtentorial approach-The surgical technique and its tips and pitfalls-.	Essential Practice of Neurosurgery, 2nd Edition(YNS section included) , World Federation of Neurosurgical
46	Mitsui Y	Department of Urology, Shimane University School of Medicine	Hybrid procedure using perineal and abdominal approaches for radical prostatocystectomy: initial experience with 16 select cases.	SpringerPlus. 2013 Jul 29;2:348.
47	Mitsui Y	Department of Urology, Shimane University Faculty of Medicine	Coordination of bone morphogenetic protein 2 (BMP2) and aberrant canonical Wnt/ β -catenin signaling for heterotopic bone formation in adrenal myelolipoma: A case report.	Can Urol Assoc J. 2014 Jan-Feb;8(1-2):E104-7.
48	Arichi N	Department of Urology, Shimane University School of Medicine	Intraoperative fluorescence vascular imaging using indocyanine green for assessment of transplanted kidney perfusion.	Transplant Proc. 2014 Mar;46(2):342-5.
49	Miyaoka T	Department of Psychiatry, Shimane University School of Medicine	Yokukansan (TJ-54) for treatment of very-late-onset schizophrenia-like psychosis: an open-label study.	Phytomedicine. 2013 May 15;20(7):654-8.
50	Hashioka S	Department of Psychiatry, Faculty of Medicine, Shimane University	Glia: an important target for anti-inflammatory and antidepressant activity.	Curr Drug Targets. 2013 Oct;14(11):1322-8.

番号	発表者氏名	発表者の所属	題名	雑誌名
51	Wake R	Department of Psychiatry, Shimane University Faculty of Medicine	Yokukansan (TJ-54) for irritability associated with pervasive developmental disorder in children and adolescents: a 12-week prospective, open-label study.	J Child Adolesc Psychopharmacol. 2013 Jun;23(5):329-36.
52	Furuya M	Department of Psychiatry, Shimane University Faculty of Medicine	Yokukansan promotes hippocampal neurogenesis associated with the suppression of activated microglia in Gunn rat.	J Neuroinflammation. 2013 Dec 5;10:145.
53	Hayashida M	Department of Psychiatry, Shimane University Faculty of Medicine	The relation between ADHA and ANS-CNS integration.	Open Journal of Psychiatry 4: 39-42, 2014
54	Yamashita S	Department of Psychiatry, Shimane University	Treatment of Paroxysmal Perceptual Alteration in Catatonic Schizophrenia by Switching to Aripiprazole from Risperidone.	Clin Schizophr Relat Psychoses. 2013 Sep 18:1-12. [Epub ahead of print]
55	Ieda M	Department of Psychiatry, Faculty of Medicine, Shimane University	Evaluation of autonomic nervous system by salivary alpha-amylase level and heart rate variability in patients with schizophrenia.	Eur Arch Psychiatry Clin NeuroSci. 2014 Feb;264(1):83-7.
56	Tsuchie K	Department of Psychiatry, Faculty of Medicine, Shimane University	The effects of antipsychotics on behavioral abnormalities of the Gunn rat (unconjugated hyperbilirubinemia rat), a rat model of schizophrenia.	Asian J Psychiatr. 2013 Apr;6(2):119-23.
57	Rahman MT	Departments of Obstetrics and Gynecology, Shimane University School of Medicine	KRAS and MAPK1 Gene Amplification in Type II Ovarian Carcinomas.	Int J Mol Sci. 2013 Jul 2;14(7):13748-62.
58	Nakayama K	Department of Obstetrics and Gynecology, Shimane University School of Medicine	Surgical treatment outcomes of serious chronic tubo-ovarian abscess: a single-center series of 20 cases.	Clin Exp Obstet Gynecol. 2013;40(3):377-80.
59	Nakayama K	Department of Obstetrics and Gynecology, Shimane University School of Medicine	Hypermenorrhea treatment has entered a new era in Japan ~Microwave endometrial ablation~	Clin Exp Obstet Gynecol. 2013
60	Nakayama K	Department of Obstetrics and Gynecology, Shimane University School of Medicine	Microwave endometrial ablation at a frequency of 2.45 GHz for menorrhagia: analysis of treatment results at a single facility.	J Obstet Gynaecol Res. 2014 Jan;40(1):224-9.
61	Oride A	Department of Obstetrics and Gynecology, Shimane University School of Medicine	Therapeutic Process of Gynecological Pelvic Abscess-Retrospective Review of 20 Cases.	Surg. Sci., 4, 202-209
62	Kanasaki H	Department of Obstetrics and Gynecology, Shimane University School of Medicine	Circulating kisspeptin and pituitary adenylate cyclase-activating polypeptide (PACAP) do not correlate with gonadotropin serum levels.	Gynecol Endocrinol. 2013 Jun;29(6):583-7.
63	Kanasaki H	Department of Obstetrics and Gynecology, Shimane University, School of Medicine	Pituitary adenylate cyclase-activating polypeptide (PACAP) increases expression of the gonadotropin-releasing hormone (GnRH) receptor in GnRH-producing GT1-7 cells overexpressing PACAP type I receptor.	Gen Comp Endocrinol. 2013 Nov 1;193:95-102.
64	Yasuhiko Shimizu	Department of Otorhinolaryngology, Faculty of Medicine, Shimane University	Effects of the Japanese traditional medicine Bu-zhong-yi-qi-tang on Th2 responsesvia up-regulation of Toll-like receptor 4	ARSR Journal 2013

番号	発表者氏名	発表者の所属	題名	雑誌名
65	Ichiro Morikura	Department of Otorhinolaryngology, Faculty of Medicine, Shimane University	Japanese traditional medicine, Senn-kinn-naidaku-sann up-regulates Toll-like receptor 4 and reduces murine allergic rhinitis.	Rhinology, in press
66	Sano I	Department of Ophthalmology, Shimane University Faculty of Medicine	4-Hydroxyhexenal- and 4-hydroxynonenal-modified proteins in pterygia.	Oxid Med Cell Longev. 2013;2013:602029.
67	Takai Y	Department of Ophthalmology, Shimane University Faculty of Medicine	Systemic prostaglandin E1 to treat acute central retinal artery occlusion.	Invest Ophthalmol Vis Sci. 2013 Apr 30;54(4):3065-71.
68	Katsunori Hara	Department of Ophthalmology, Shimane University Faculty of Medicine	Pseudo-glaucoma after hypertensive retinopathy	Open Journal of Ophthalmology, doi:10 4236, 2013
69	Tanito M	Department of Ophthalmology, Shimane University Faculty of Medicine	Intraobserver and interobserver agreement of computer software-assisted optic nerve head photoplanimetry.	Jpn J Ophthalmol. 2014 Jan;58(1):56-61.
70	Omura T	Department of Ophthalmology, Shimane University Faculty of Medicine	Correlations among various ocular parameters in clinically unilateral pseudoexfoliation syndrome.	Acta Ophthalmol. 2014 Jan 25.
71	Yoshizako T	Department of Radiology, Shimane University Faculty of Medicine	A pictorial review of the impact of adding diffusion-weighted MR imaging to other MR sequences for assessment of anal fistulae.	Jpn J Radiol. 2013 Jun;31(6):371-6.
72	Maruyama M	Department of Radiology, Shimane University Faculty of Medicine	Comparison of utility of tumor size and apparent diffusion coefficient for differentiation of low- and high-grade clear-cell renal cell carcinoma.	Acta Radiol. 2014 Feb 11. pii: 0284185114523268. [Epub ahead of print]
73	Tamaki Y	Department of Radiation Oncology, Shimane University School of Medicine	Long-term results of radiation oncology seminar for medical students and residents held between 1995 and 2011: career paths of the participants.	Jpn J Radiol. 2013 Nov;31(11):755-9.
74	Yoshino A	Department of Oral and Maxillofacial Surgery, Shimane University Faculty of Medicine	Applicability of bacterial cellulose as an alternative to paper points in endodontic treatment.	Acta Biomater. 2013 Apr;9(4):6116-22.
75	Toshihiro Y	Department of Oral and Maxillofacial Surgery, Shimane University Faculty of Medicine	Applicability of buccal fat pad grafting for oral reconstruction.	Int J Oral Maxillofac Surg. 2013 May;42(5):604-10.
76	Tatsumi H	Department of Oral and Maxillofacial Surgery, Shimane University Faculty of Medicine	Effect of ageing on healing of bilateral mandibular condyle fractures in a rat model.	Int J Oral Maxillofac Surg. 2014 Feb;43(2):185-93.
77	Kanno T	Department of Oral and Maxillofacial Surgery, Shimane University Faculty of Medicine	The retromandibular transparotid approach for reduction and rigid internal fixation using two locking miniplates in mandibular condylar neck fractures.	Int J Oral Maxillofac Surg. 2014 Feb;43(2):177-84.
78	Ishihara T	Central of Clinical Laboratory, Shimane University Hospital	Low-density lipoprotein as a biomarker for the mobilization of hematopoietic stem cells in peripheral blood.	Transfus Apher Sci. 2013 Dec;49(3):539-41.

番号	発表者氏名	発表者の所属	題名	雑誌名
79	Nitta E	Central Clinical Laboratory, Shimane University Hospital	A case of arrhythmogenic right ventricular cardiomyopathy in a 70-year-old patient	Journal of Medical Ultrasonics 41(1): 73-76, 2014 January
80	Taketani T	Division of Blood Transfusion, Shimane University Hospital	Therapy-related Ph+ leukemia after both bone marrow and mesenchymal stem cell transplantation for hypophosphatasia.	Pediatr Int. 2013 Jun;55(3):e52-5.
81	Taketani T	Division of Blood Transfusion, Shimane University Hospital	Clinical and genetic aspects of hypophosphatasia in Japanese patients.	Arch Dis Child. 2014 Mar;99(3):211-5.
82	Taketani T	Division of Blood Transfusion, Shimane University Hospital	Ectopic neuroblastoma in monozygotic twins with different ages of onset: possible twin-to-twin metastasis in utero with distinct genetic alterations after birth.	J Pediatr Hematol Oncol. 2014 Mar;36(2):166-8.
83	Hanada E	Division of Medical Informatics, Shimane University Hospital	Installation of secure, always available wireless LAN systems as a component of the hospital communication infrastructure.	J Med Syst. 2013 Jun;37(3):9939.
84	Hanada E	Division of Medical Informatics, Shimane University Hospital	Ensuring the security and availability of a hospital wireless LAN system.	Stud Health Technol Inform. 2013;192:166-70.
85	Shusaku Tsumoto	Division of Medical Infromatics, Shimane University Hospital	Similarity-based behavior and process mining of medical practices.	Future Generation Computer Systems, 33: 21-31, 2014
86	Kumakura S	Department of Medical Education and Research, Faculty of Medicine, Shimane University	Comparison of hemagglutination inhibition assay and enzyme immunoassay for determination of mumps and rubella immune status in health care personnel.	J Clin Lab Anal. 2013 Sep;27(5):418-21.
87	Kumakura S	Department of Medical Education and Research, Faculty of Medicine, Shimane University	Seroprevalence survey on measles, mumps, rubella and varicella antibodies in healthcare workers in Japan: sex, age, occupational-related differences and vaccine efficacy.	Epidemiol Infect. 2014 Jan;142(1):12-9.
88	Kumakura S	Department of Medical Education and Research, Faculty of Medicine, Shimane University	Self-reported histories of disease and vaccination against measles, mumps, rubella and varicella in health care personnel in Japan.	J Infect Chemother. 2014 Mar;20(3):194-8.

計 88

(注) 1　当該特定機能病院に所属する医師等が申請の前年度に発表した英語論文のうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断されるものを七十件以上記入すること。七十件以上発表を行っている場合には、七十件のみを記載するのではなく、合理的な範囲で可能な限り記載すること。

2　報告の対象とするのは、筆頭著者の所属先が当該特定機能病院である論文であり、査読のある学術雑誌に掲載されたものに限るものであること。ただし、実態上、当該特定機能病院を附属している大学の講座等と当該特定機能病院の診療科が同一の組織として活動を行っている場合においては、筆頭著者の所属先が大学の当該講座等であっても、論文の数の算定対象に含めるものであること(筆頭著者が当該特定機能病院に所属している場合に限る)。

3　「発表者の所属」については、論文に記載されている所属先をすべて記載すること。

4　「雑誌名」欄には、「雑誌名」「巻数・号数」「該当ページ」「出版年」について記載すること。

5　平成二十六年度中の業務報告において当該実績が七十件未満の場合には、平成二十六年度の改正前の基準による実績についても報告すること。

(様式第 3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

3　高度の医療技術の開発及び評価の実施体制

(1) 倫理審査委員会の開催状況

①　倫理審査委員会の設置状況	有・無
②　倫理審査委員会の手順書の整備状況	有・無
・　手順書の主な内容 委員会の構成、定足数、審査手順、申請方法、報告事項、記録の保存　等	
③　倫理審査委員会の開催状況	年12回

（注）　1　倫理審査委員会については、「臨床研究に関する倫理指針」に定める構成である場合に「有」に○印を付けること。
2　「③倫理審査委員会の開催状況」に係る報告については、平成二十六年度中の業務報告において開催実績が無い場合には、平成二十六年四月以降の実績を報告しても差し支えないこと（その場合には、その旨を明らかとすること）。

(2) 利益相反を管理するための措置

①　利益相反を審査し、適当な管理措置について検討するための委員会の設置状況	有・無
②　利益相反の管理に関する規定の整備状況	有・無
・　規定の主な内容 審議事項、委員会の構成、報告事項、機密の保持　等	
③　利益相反を審査し、適当な管理措置について検討するための委員会の開催状況	年11回

（注）「③利益相反を審査し、適当な管理措置について検討するための委員会の開催状況」に係る報告については、平成二十六年度中の業務報告において開催実績が無い場合には、平成二十六年四月以降の実績を報告しても差し支えないこと（その場合には、その旨を明らかとすること）。

(3) 臨床研究の倫理に関する講習等の実施

①　臨床研究の倫理に関する講習等の実施状況	年1回
・研修の主な内容 研究に関連する倫理指針に合わせて学内規定の見直しを行ったため、その周知のための講習会を実施した。	

（注）「①臨床研究の倫理に関する講習等の実施状況」に係る報告については、平成二十六年度中の業務報告において実施実績が無い場合には、平成二十六年四月以降の実績を報告しても差し支えないこと（その場合には、その旨を明らかとすること）。

(様式第 4)

高度の医療に関する研修を行わせる能力を有することを証する書類

1　研修の内容

「地域医療と先進医療が調和する大学病院」を理念とした研修指導医数の豊富な臨床研修施設であり、卒前卒後のシームレスな医学教育を提供し、地域病院間ネットワークを有する基幹病院として新専門医制度に対応した後期研修プログラムを提供可能である。

また、プログラム作成には若手医師のキャリア形成支援を担当するしまね地域医療支援センター、各診療科、県内医療機関等が連携して、基本領域の専門医やサブスペシャリティーの専門医、あるいは同時に医学博士の学位取得を目標とした後期研修プログラムを作成している。今後は新専門医制度に対応した体制整備を図る予定である。

2　研修の実績

研修医の人数	７５．０８人

（注）前年度の研修医の実績を記入すること。

3　研修統括者

研修統括者氏名	診療科	役職等	臨床経験年数	特記事項
杉本　利嗣	内分泌代謝内科	科長	３５年	
鈴宮　淳司	腫瘍・血液内科	科長	３０年	
木下　芳一	消化器内科	科長	３４年	
佐藤　秀一	肝臓内科	科長	２１年	
山口　修平	神経内科	科長	３４年	
村川　洋子	膠原病内科	科長	２８年	
礒部　威	呼吸器・化学療法内科	科長	２８年	
伊藤　孝史	腎臓内科	科長	２２年	
田邊　一明	循環器内科	科長	２９年	
森田　栄伸	皮膚科	科長	３２年	
山口　清次	小児科	科長	３９年	
平原　典幸	消化器外科	科長	２３年	
田島　義証	肝・胆・膵外科	科長	３１年	
久守　孝司	小児外科	科長	２７年	
板倉　正幸	乳腺・内分泌外科	科長	３０年	
織田　禎二	心臓血管外科	科長	３１年	
岸本　晃司	呼吸器外科	科長	２５年	
内尾　祐司	整形外科	科長	２８年	
秋山　恭彦	脳神経外科	科長	２４年	
椎名　浩昭	泌尿器科	科長	２９年	
堀口　淳	精神科神経科	科長	３６年	
京　哲	産科	科長	２８年	
京　哲	婦人科	科長	２８年	
川内　秀之	耳鼻咽喉科	科長	３１年	
大平　明弘	眼科	科長	３６年	
北垣　一	放射線科	科長	３０年	
猪俣　泰典	放射線治療科	科長	３４年	
齊藤　洋司	麻酔科	科長	３１年	

関根　浄治	歯科口腔外科	科長	２３年	
長井　篤	臨床検査科	科長	２６年	
丸山　理留敬	病理診断科	科長	３２年	

(注) 1　医療法施行規則第六条の四第一項又は第四項の規定により、標榜を行うこととされている診療科については、必ず記載すること。

(注) 2　内科について、サブスペシャルティ領域ごとに研修統括者を配置している場合には、すべてのサブスペシャルティ領域について研修統括者を記載すること。

(注) 3　外科について、サブスペシャルティ領域ごとに研修統括者を配置している場合には、すべてのサブスペシャルティ領域について研修統括者を記載すること。

(様式第 5)

診療並びに病院の管理及び運営に関する諸記録の管理方法に関する書類

計画・現状の別	1．計画　②現状
管理責任者氏名	病院長　井川　幹夫
管理担当者氏名	検査部長　長井　篤、放射線部長　北垣　一、手術部長　佐倉　伸一 薬剤部長　直良　浩司、看護部長　秦　美恵子、総務課長、林　勝幸 医療サービス課長　林　元之

			保管場所	管理方法
診療に関する諸記録 病院日誌、各科診療日誌、処方せん、手術記録、看護記録、検査所見記録、エックス線写真、紹介状、退院した患者に係る入院期間中の診療経過の要約及び入院診療計画書			医療サービス課 手術部 薬剤部 検査部 放射線部 看護部	カルテ等の病歴資料は、入院・外来別に１患者１ファイル方式で管理し、エックス線写真は放射線部で患者毎に管理している。なお、平成１８年９月の電子カルテ導入後、電子化されたものは病院情報管理システムのデータベース上で、患者ＩＤをキーにして管理されている。 ○診療録を病院外へ持ち出す際の取扱い ・紙診療録は、医学部外に帯出しないこととして、閲覧者への遵守事項としている。 ・電子的に保存された診療録及び診療諸記録に係る情報の利用は、本院が定める利用要項に基づいた申請により、了承されたものとしており、原則学外へ持ち出すことを禁じている。
病院の管理及び運営に関する諸記録	従業者数を明らかにする帳簿		医学部総務課	
	高度の医療の提供の実績		医学部医療サービス課	
	高度の医療技術の開発及び評価の実績		医学部総務課	
	高度の医療の研修の実績		医学部総務課	
	閲覧実績		医学部医療サービス課	
	紹介患者に対する医療提供の実績		医学部医療サービス課	
	入院患者数、外来患者及び調剤の数を明らかにする帳簿		医学部医療サービス課及び薬剤部	
	第一規則第に一掲条げのる十体一制第の一確項保各の号	医療に係る安全管理のための指針の整備状況	医学部医療サービス課	
		医療に係る安全管理のための委員会の開催状況	医学部医療サービス課	
		医療に係る安全管理のための職員研修の実施状況	医学部医療サービス課	
		医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策	医学部医療サービス課	

	状及び第九条の二十第一項	の状況		
		専任の医療に係る安全管理を行う者の配置状況	医学部医療サービス課	
		専任の院内感染対策を行う者の配置状況	医学部医療サービス課	
		医療に係る安全管理を行う部門の設置状況	医学部医療サービス課	
		当該病院内に患者からの安全管理に係る相談に適切に応じる体制の確保状況	医学部医療サービス課	

			保管場所	管理方法
病院の管理及び運営に関する諸記録	規則第一条の十一第一項各号及び第九条の二十三第一項第一号に掲げる体制の確保の状	院内感染のための指針の策定状況	医学部医療サービス課	
		院内感染対策のための委員会の開催状況	医学部医療サービス課	
		従業者に対する院内感染対策のための研修の実施状況	医学部医療サービス課	
		感染症の発生状況の報告その他の院内感染対策の推進を目的とした改善のための方策の実施状況	医学部医療サービス課	
		医薬品の使用に係る安全な管理のための責任者の配置状況	医学部医療サービス課	
		従業者に対する医薬品の安全使用のための研修の実施状況	医学部医療サービス課及び薬剤部	
		医薬品の安全使用のための業務に関する手順書の作成及び当該手順書に基づく業務の実施状況	医学部医療サービス課及び薬剤部	
		医薬品の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医薬品の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	医学部医療サービス課及び薬剤部	
		医療機器の安全使用のための責任者の配置状況	医学部医療サービス課	
		従業者に対する医療機器の安全使用のための研修の実施状況	医学部医療サービス課及びＭＥセンター	
		医療機器の保守点検に関する計画の策定及び保守点検の実施状況	医学部医療サービス課及びＭＥセンター	
		医療機器の安全使用	医学部医療サー	

	況	のために必要となる情報の収集その他の医療機器の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	ビス課及びＭＥセンター	

(注)「診療に関する諸記録」欄には、個々の記録について記入する必要はなく、全体としての管理方法の概略を記入すること。また、診療録を病院外に持ち出す際に係る取扱いについても記載すること。

(様式第 6)

病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法に関する書類

○病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法

計画・現状の別	1．計画　②．現状	
閲覧責任者氏名	医学部事務部長　藤原　楠生	
閲覧担当者氏名	医学部医療サービス課長　林　元之	
閲覧の求めに応じる場所	附属病院２階カルテ閲覧室	
閲覧の手続の概要 紙診療録の閲覧を希望する者は、診療録閲覧申込書に所要事項を記入し病歴担当者へ申し出た上で、カルテ閲覧室において閲覧する。閲覧後は、病歴担当者へ返却する。		

(注) 既に医療法施行規則第 9 条の 20 第 5 号の規定に合致する方法により記録を閲覧させている病院は現状について、その他の病院は計画について記載することとし、「計画・現状の別」欄の該当する番号に○印を付けること。

○病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧の実績

前年度の総閲覧件数		延	0 件
閲覧者別	医師	延	0 件
	歯科医師	延	0 件
	国	延	0 件
	地方公共団体	延	0 件

(注) 特定機能病院の名称の承認申請の場合には、必ずしも記入する必要はないこと。

（様式第６）

規則第１条の１１第１項各号及び第９条の２３第１項第１号に掲げる体制の確保の状況

① 医療に係る安全管理のための指針の整備状況	有・無

・ 指針の主な内容：

はじめに　「医療安全文化を維持向上させるために」

1　安全管理に関する基本指針

島根大学医学部附属病院における安全管理に関する基本方針

2　医療事故防止の基本

3　医療事故防止に関する基本用語

4　インフォームド・コンセント

5　安全管理体制に関する組織

6　医療事故を未然に防止するための体制

7　医療事故等が発生した場合（緊急時）の対応

8　医療従事者と患者との間の情報の共有

9　患者からの相談への対応

10　職員研修

11　医療安全推進のために必要なその他の事柄

12　関連マニュアル等

② 医療に係る安全管理のための委員会の開催状況	年１２回

1　医療安全管理委員会　　原則／毎月・１回　　（平成２５年度実績　１２回）

2　リスクマネジャー会議　　原則／毎月・１回　　（平成２５年度実績　１２回）

・ 活動の主な内容：

1　島根大学医学部附属病院医療安全管理委員会規則

1）医療事故等の防止対策に関すること

2）医療事故等の把握、分析、対処改善及び評価に関すること

3）医療事故に係る患者及びその家族への対応に関すること

4）安全管理のための職員の教育・研修に関すること

5）医薬品の安全使用に関すること

6）医療機器の安全使用に関すること

7）その他、医療安全管理に関すること

2　島根大学医学部附属病院リスクマネジャーに関する要項

1）安全確保のための点検の実施に関すること

2）当該診療科等の構成員に対し、安全確保のための指導の実施に関すること

3）リスクマネジャー会議への参画に関すること

4）その他、医療事故防止に関すること

③ 医療に係る安全管理のための職員研修の実施状況	年７回

・　研修の主な内容：

1　手術室におけるタイムアウトについて

2　患者及びその家族・職員全員参加型医療安全文化醸成をめざして

3　治療計画装置（Oncentra）安全使用について

4　Dual Incu i

S1235 安全使用について

5　外部照射装置の臨床的品質管理

6　除細動器の安全管理とその使用について／基礎編

ECMOのABC　－ELSOレジストリーから臨床応用まで－

7　事例より学ぶ人工呼吸器の安全使用について／基礎編

泌尿器科領域で使用する機器について

※　その他の医薬品・医療機器安全使用研修及び新規・中途採用者の医療安全研修外

④ 医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策の状況

・　医療機関内における事故報告等の整備　　（（有）・無　）

・　その他の改善のための方策の主な内容：

1　インシデントレポート閲覧権限拡大

２５年度よりリスクマネジャーまでインシデント閲覧権限を拡大し、各部署のカンファレンス等で活用してもらった。今後、データの出し方や情報交換の方法について説明・指導をしていく。

2　院内ラウンドの実施

２５年度より室員による院内ラウンドを、毎月テーマを決めて月２回実施した。ラ

ウンド結果からは概して医師の医療安全への関心の低さが伺え、今後医師からのインシデントレポート提出１０％を目指すとともにラウンド時の聞き取りも実施していく。

3　医療安全管理室への副看護師長増員

２６年度医療安全管理室への副看護師長１名の増員に伴い、院内ラウンドの強化を行い、特に指さし呼称の徹底による薬剤関連インシデントの減少とＫＹＴ（危険予知トレーニング）の学習を進める。

4　リスクまねじめんと通信を通じての事例周知

リスクマネジャー会議での「最近のインシデント事例」の周知が徹底できていないことから、毎月事例の内容を盛り込んだ「リスクまねじめんと通信」を発行していく。

⑤ 専任の医療に係る安全管理を行う者の配置状況	有（　2名）・無
⑥ 専任の院内感染対策を行う者の配置状況	有（　1名）・無
⑦ 医療に係る安全管理を行う部門の設置状況	有・無

・ 所属職員：　専任（　2　）名　兼任（　8　）名
・ 活動の主な内容：

1　医療安全管理委員会で用いられる資料及び議事録の作成及び保存、その他医療に係る安全管理のための委員会の事務に関すること

2 事故等に関する診療録や看護記録等への記載が正確かつ十分になされていることの確認を行うとともに、必要な指導を行うこと

3 患者や家族への説明など事故発生時の対応状況について確認を行うとともに、必要な指導を行うこと

4 事故等の原因究明が適切に実施されていることを確認するとともに、必要な指導を行うこと

5 医療安全管理に係る連絡調整に関すること

6 医薬品の安全使用に係る連絡調整に関すること

7 医療機器の安全使用に係る連絡調整に関すること

8 安全管理に関する教育・研修に関すること

9 その他医療安全対策の推進に関すること

⑧ 当該病院内に患者からの安全管理に係る相談に適切に応じる体制の確保状況	有・無

（様式第 6）

院内感染対策のための体制の確保に係る措置

① 院内感染対策のための指針の策定状況	(有)・無
・指針の主な内容： 1．院内感染対策に関する基本的考え方 2．院内感染対策のための委員会等の組織に関する基本方針 3．院内感染のための従業者に対する研修に関する基本方針 4．感染症の発生状況の報告に関する基本方針 5．院内感染発生時の対応に関する基本方針 6．患者等に対する当該方針の閲覧に関する基本方針 7．院内における感染対策の推進のために必要な基本方針	
② 院内感染対策のための委員会の開催状況	年１２回
・活動の主な内容： 1．感染対策室の運営、業務の企画に関すること 2．感染の予防に関すること 3．予防対策実施の指導に関すること 4．感染予防の教育に関すること 5．院内感染の原因調査、経過の追跡、整理及び分析等に関すること 6．その他感染対策に関すること	
③ 従業者に対する院内感染対策のための研修の実施状況	年５回
・研修の主な内容： ○全職員対象研修 「感染対策の基本を確認しよう」 「２５分で分かる予防接種」 「結核について～潜在性結核感染症への対応を含めて～」 「MRSAの感染制御と治療について」 「Influenza Up To Date」、「ノロウイルス感染症について」 ○新規採用者（中途採用者）の「医療安全及び感染対策」研修会 （新規採用者研修　１回、中途採用者研修　２回） ○外部委託業者（清掃・廃棄物）の感染対策のための研修会「防ごう、ノロウイルス感染症」	
④ 感染症の発生状況の報告その他の院内感染対策の推進を目的とした改善のための方策の状況	
・病院における発生状況の報告等の整備　（(有)・無　） ・その他の改善のための方策の主な内容： ○各部署をラウンドし状況の確認、情報収集の上指導する。 ○週１回開催する週ミーティング時、感染情報Webを展開して感染症状況、抗菌薬使用状況を分析し、指導する。 ○必要時に関係者を招集し会議を開催する。発生の原因を分析・協議し、改善策の立案及び実施の指導並びに他部署への周知を図る。	

（様式第 6）

医薬品に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医薬品の使用に係る安全な管理のための責任者の配置状況	(有)・無
② 従業者に対する医薬品の安全使用のための研修の実施状況	年２８回

・ 研修の主な内容：

（院内全体の研修会）

1 医員研修会「処方時の留意点，副作用報告について」

2 緩和ケアセミナー「緩和領域における薬剤相互作用と簡易懸濁」

3 新人看護職静脈注射研修「薬剤の基礎知識と管理（第１回）」

4 新人看護職静脈注射研修「薬剤の基礎知識と管理（第２回）」

（薬剤部内の研修会）

製品説明会等 ２４回

③ 医薬品の安全使用のための業務に関する手順書の作成及び当該手順書に基づく業務の実施状況

・ 手順書の作成 （(有)・無）

・ 業務の主な内容

別紙参照

④ 医薬品の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医薬品の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況

・ 医薬品に係る情報の収集の整備 （(有)・無）

・ その他の改善のための方策の主な内容：

（情報収集の方法）

1 新規採用時：新規採用薬については，医薬品添付文書・インタビューフォーム・製品概要・各種パンフレット・関連文献（集）等の収集。

また，医薬品添付文書・インタビューフォーム等が更新された場合は，最新情報を収集・更新している。

2 随時：緊急安全性情報（厚生労働省「医薬品・医療機器等安全性情報」）の収集と院内提供をしている。

（情報の周知方法）

1 緊急安全性情報，医薬品・医療機器等安全性情報，ＤＳＵ等は各診療科，中央・特殊診療施設，看護部等の院内関係部署へ配布する。

薬事専門部会結果（薬剤の採用及び取り消し等）については，院内関係部署へ文書にて情

報提供し，さらに新規採用薬については，効能・効果，用法・用量，副作用などの情報も一緒に提供している。

上記の緊急安全性情報，医薬品・医療機器等安全性情報，薬事専門部会結果は院内Ｗｅｂ（薬剤部ホームページ）でも情報提供を行っている。

2　（財）日本医療機能評価機構からの共有すべき情報（医薬品関係）をリスクマネジャー会議で周知している。

別紙

（手順書に基づく業務実施の主な内容）

1　医薬品の採用

・　医薬品の新規採用に際しては、用法・用量、禁忌、相互作用、副作用、保管・管理上の注意、使用上の注意に関する問題点を抽出し、問題点がある場合には対策を検討して当該医薬品を適正かつ安全に使用できるよう適切に対処する。

2　医薬品の購入

・　納入医薬品の破損の有無および外観異常を検査する。

・　麻薬、覚せい剤原料、向精神薬（第１種、第２種）、毒薬・劇薬、特定生物由来製品などの納入時には、関連する法規に基づき対応する。

3　調剤室における医薬品の管理

・　薬剤は関連する法規に基づく配置、管理を行うとともに、外観類似薬は配置場所を離す、同一銘柄が複数存在する場合は規格の色やデザインを変えて規格が複数あることが判るようにする、類似名称薬品には、「類似薬品名注意」等の表示を行って注意喚起するなどの対応をとる。

4　病棟・各部門への医薬品の供給

・　注射薬は原則、専用トレーに患者単位・１日単位の薬品を１手技ごとにセットし払い出す。

・　配置品目・定数は、注射薬の使用量を基に年１回以上見直しを行う。

・　特に安全管理が必要な医薬品（薬剤部ホームページ掲載：施錠管理の薬剤）は、交付時に「所定の場所へ保管」と印刷された専用の袋に入れて直接手渡しあるいは施錠可能なカートまたはカートに付属の施錠可能なボックスに入れて交付する。

5　外来患者への医薬品使用

・　特定の薬品（ハイリスク薬等）は、薬歴、病名や臨床検査値などを確認する。

・　処方内容に疑義がある場合は、処方医への問い合わせを行い、必ず疑義が解決されてから調剤を行う。

・　疑義照会の記録として、処方せんに照会内容を赤字で記入し保管する。また、照会内容、変更内容、照会者を記載した疑義照会記録を保管する。

・　疑義照会などで得られた調剤及び服薬指導に必要な患者情報を病院情報システムに登録する。

・　処方内容に変更が生じる場合は、医師が処方を修正する。

・　糖尿病用薬等、薬学的指導が必要な薬剤を交付されている患者には副作用、用法用量等に関して

継続的な説明を行う。

6　病棟における医薬品の管理

・　薬剤は関連する法規に基づく配置、管理を行う。

・　規制医薬品及び特に安全管理が必要な医薬品については、必要最小量の数量を定数配置する。

・　原則として年１回以上、病棟医長、病棟担当薬剤師、看護師長による配置薬品の見直しを行う。

・　危険薬を新たに配置する場合は病棟担当薬剤師が「薬剤名ラベル」とともに「危険薬シール」を配置箇所に貼付し識別性を高める。

・　救急カートは医療安全の観点から、原則として一般病棟においては品目、数量およびカート内の配置を統一する。

7　入院患者への医薬品の使用

・　「持参薬確認業務実施マニュアル」に従って、薬剤師が原則すべての入院患者の持参薬について確認を行う。

・　払い出し済みの内服薬、外用薬等の用法・用量の変更及び中止の指示は、医師が指示をオーダ入力し、必要に応じて口頭でも伝達する。

・　払い出し済みの注射薬を変更及び中止する場合は、注射オーダの変更又は中止の入力を行う。不要となった注射薬は、返品伝票と一緒に薬剤部へ返納する。必要に応じて指示オーダを変更し、その内容等を看護師に連絡する。

・　処方医は、疑義照会により修正が必要となった場合は、電子カルテ上で処方修正を行い、指示せんを差し替える。必要な場合は、電子カルテ内の指示オーダも変更する。

・　使用する上で特に注意が必要な薬品は、調製時の注意、希釈、安定性などの情報を出力し、注射薬に添付して情報提供を行う。

8　医薬品情報の収集・管理・提供

・　医薬品・医療機器等安全性情報に該当する疑いのある副作用を発見した場合には、医薬品安全性情報報告書に記入し薬剤部長に送付する。厚生労働省に送付した副作用情報は薬事専門部会で評価し、対応を検討する。

・　添付文書情報の重要な改訂や緊急安全性情報など緊急性を有する安全性情報を入手した場合は、薬剤部長とその重要度を協議して対応を決定する。院内各部門へ文書で通知するとともに薬剤部ホームページへ掲載する。処方患者特定などの詳細な処方状況が必要な場合は、当該診療科へ情報を提供する。

9　手術・麻酔部門

10　集中治療部門

11　輸血・血液管理部門

12　血液透析部門

13　画像診断部門，臨床検査部門

14　歯科領域

・　９～14 については「部署別安全管理マニュアル」部署別編ならびに各部門ホームページを参照

15　他施設との連携

・　必要に応じて他の医療機関へ、退院時処方（現に使用する医薬品の名称、剤形、規格、用法、用量）の内容、一包化等の調剤上の工夫、服薬期間の管理が必要な医薬品の投与開始日、アレルギー歴、副作用歴、禁忌医薬品等を退院時服薬指導書やお薬手帳に記載する。

・　院外処方せんに対する疑義照会及び回答は、薬剤部を介してファックスを用いて行う。

16　事故発生時の対応

・　緊急時にはドクターハリーコール（TEL 199）などにより対応する。

・　事故発生を想定した対応手順の作成と定期的な見直しを行い職員へ周知する。

・　「医療安全管理・危機管理対応ポケットマニュアル」を職員に配布し、定期的に見直す。

・　インシデント事例の収集・分析とそれに基づく事故防止対策の策定と実施を行う。

・　事故発生時には、「医療事故防止対策マニュアル」、「医療安全管理・危機管理対応ポケットマニュアル」に従って対応する。

17　教育・研修

・　医療安全、医薬品・医療機器に関する事故防止対策等の教育・研修を実施する。

・　新任医師及び看護師に対する医薬品の安全使用に関する研修会を実施する。

（様式第 6）

医療機器に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医療機器の安全使用のための責任者の配置状況	(有) ・ 無
② 従業者に対する医療機器の安全使用のための研修の実施状況	年５回

・ 研修の主な内容：

1 治療計画装置（Oncentra）安全使用について

2 Dual Incu i

S1235 安全使用について

3 外部照射装置の臨床的品質管理

4 除細動器の安全管理とその使用について／基礎編

ECMOのABC －ELSOレジストリーから臨床応用までー

5 事例より学ぶ人工呼吸器の安全使用について／基礎編

泌尿器科領域で使用する機器について

③ 医療機器の保守点検に関する計画の策定及び保守点検の実施状況

・ 計画の策定 （(有) ・ 無）

・ 保守点検の主な内容：

1 始業点検，終業点検

2 外部委託によるオーバーホール，院内でのオーバーホール

3 外部委託による定期保守・緊急保守（故障・修理）

④ 医療機器の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医療機器の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況

・ 医療機器に係る情報の収集の整備 （(有) ・ 無）

・ その他の改善のための方策の主な内容：

（情報収集の方法）

1 平成１９年３月３０日医政指発第０３３０００１号第４．３に基づき，製造販売業者等から不具合が生じた機器に関する情報を収集している。

2 臨床工学技士の研修会及び講習会参加により種々情報を収集している。

3 島根県出雲保健所から，人工呼吸器の医療安全対策に係る情報を収集している。

4 インターネットによる医療事故情報にて情報を収集している。

（情報の周知方法）

1　上記により収集した情報を医療機器安全管理責任者から病院長に報告をすると共に，該当設置部署，会計課及びMEセンターに文書及び口頭にて周知している。

2　医療機器の安全使用のための研修会にて情報の周知を行っている。

3　医療機器管理システムによる情報発信（予定）